

○株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所（市場第一部）
公 告 の 方 法	電子公告により行う [公告掲載 URL] http://www.hayashikane.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 1.株主様の住所変更、買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 林兼産業株式会社

〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号
TEL(083)266-0210 FAX(083)266-1266

ホームページのご案内



林兼産業株式会社 Topページ
<http://www.hayashikane.co.jp/>



林兼産業株式会社 IR情報ページ
<http://www.hayashikane.co.jp/ir/index.html>



この報告書は、FSC®認証紙と、環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。

With you

株主通信

平成29年4月1日～平成30年3月31日

第79期



Index

業績サマリー	01
社長から皆さまへ	02
セグメント概況	03
トピックス	04
インフォメーション	05
財務諸表(要約)	07
会社概要	09

 林兼産業株式会社

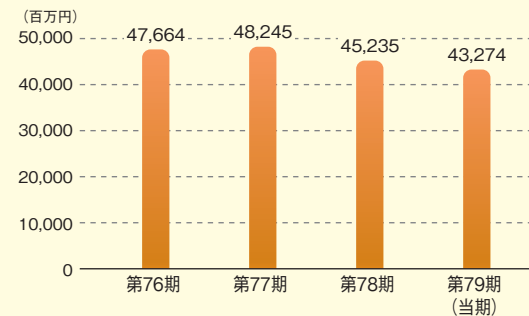
証券コード | 2286

業績サマリー

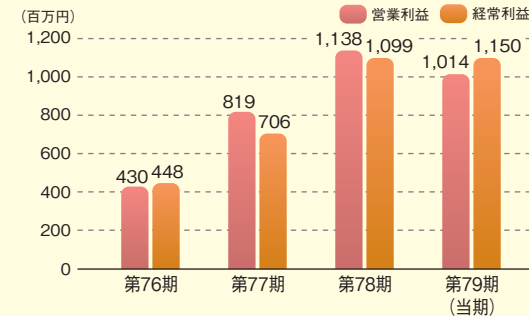
財務ハイライト

	第79期	第78期	前期比増減
連結売上高	43,274百万円	45,235百万円	△4.3%
連結営業利益	1,014百万円	1,138百万円	△10.9%
連結経常利益	1,150百万円	1,099百万円	4.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	817百万円	693百万円	17.8%

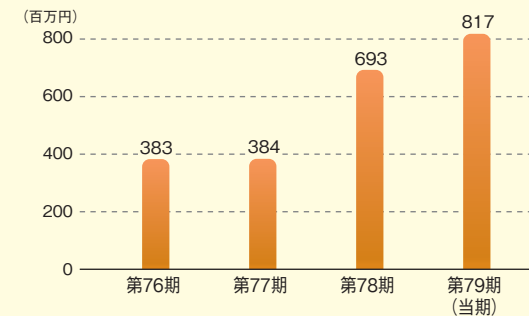
○連結売上高



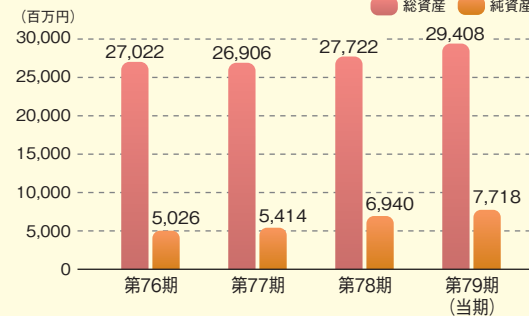
○連結営業利益 / 経常利益



○親会社株主に帰属する当期純利益



○連結総資産 / 純資産



社長から皆さまへ

株主の皆さまに第79期株主通信をお手もとにお届け申しあげるとともに、日ごろのご愛顧とご支援に厚く御礼申し上げます。

当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループの売上高は、機能性食品素材カツオエラスチンの販売拡大や魚肉ねり製品の輸出増加などがあったものの、養魚用飼料の販売数量が減少したことにより432億74百万円(前期比4.3%減少)となりました。損益面におきましては、売上減少や豚肉相場が高値で推移したことによる仕入コストの増大などにより営業利益10億14百万円(前期比10.9%減少)となったものの、営業外収支の改善により経常利益11億50百万円(前期比4.7%増加)、親会社株主に帰属する当期純利益8億17百万円(前期比17.8%増加)となりました。

経営計画

当連結会計年度までの「第三次中期経営計画」においては、事業戦略の最大テーマとして企業体質の強化に取り組み、売上高は計画を下回ったものの、当面の目標値としていた売上高経常利益率2%を達成することができました。

しかしながら、当社を取巻く原料事情は今後も厳しい状況が続くことが予想されます。このような状況のなか、当社グループはこれまでに取り組んでまいりました構造改革、

売上拡大、企業体質の強化による収益基盤の改善を更に推し進め、本年4月からの2ヵ年を事業基盤の確立の期間として「第四次中期経営計画」(2019年3月期～2020年3月期)を策定いたしました。本計画においては、「前進～次のステージへ」をテーマに、「収益基盤」「財務基盤」「経営基盤」の安定化を図り、持続的な成長を可能とする事業基盤の確立に努めてまいります。これにより、外部環境の変化に柔軟に対応しうる「ぶれない事業」を構築し、先行き不透明な事業環境にも左右されない力強い企業として持続的な事業発展を目指してまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月



取締役社長
熊山 忠和

※「第四次中期経営計画」の詳細につきましては、当社ホームページ「IR情報」をご参照ください。
[<http://www.hayashikane.co.jp/ir/index.html>]

セグメント概況

トピックス

〔水産食品事業〕

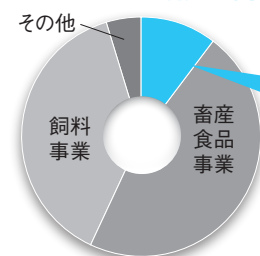


魚肉ねり製品は、国内市場が縮小傾向にあるなか、中国・香港への輸出量が増加したことなどにより、増収となりました。

機能性食品は、機能性食品素材カツオエラスチンの販売が国内外で大きく伸長したことや、高齢者向けソフト食「ソフミート」や和菓子の販売が好調に推移したことにより、増収となりました。

これらにより、売上高は44億96百万円（前期比10.5%増加）、セグメント利益（営業利益）は3億39百万円（前期は19百万円）となりました。

○セグメント別売上高



44億96百万円

前期比 10.5%増

セグメント利益 3億39百万円

前期比 1,648.3%増

〔畜産食品事業〕



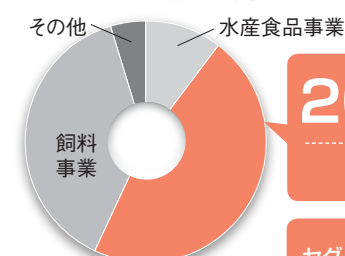
ハム・ソーセージ等食肉加工品は、OEM（相手先ブランド供給）製品の販売数量が減少したことにより、減収となりました。

肉類は、豚肉相場が高値推移するなか、豚肉の販売数量が増加したことにより、増収となりました。

調理食品は、新規ルートでの販売を開始したことにより、増収となりました。

これらにより、売上高は202億38百万円（前期比1.9%増加）となりました。損益面においては、豚肉仕入コストや物流費の増加などによりセグメント利益（営業利益）は5億61百万円（前期比4.6%減少）となりました。

○セグメント別売上高



202億38百万円

前期比 1.9%増

セグメント利益 5億61百万円

前期比 4.6%減

〔飼料事業〕



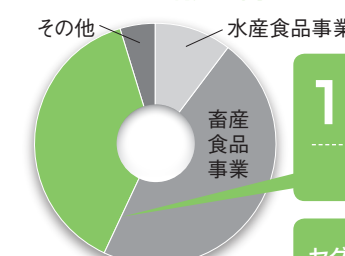
養魚用飼料は、厳しい販売競争が続くなか、既存取引先への販売数量が減少したことにより、減収となりました。

水産物は、鰻の販売数量が減少したことなどにより、減収となりました。

畜産用飼料は、養豚用飼料の販売単価が上昇したことにより、増収となりました。

これらにより、売上高は165億69百万円（前期比12.8%減少）、セグメント利益（営業利益）は9億90百万円（前期比29.9%減少）となりました。

○セグメント別売上高



165億69百万円

前期比 12.8%減

セグメント利益 9億90百万円

前期比 29.9%減

「第四次中期経営計画」を （2019年3月期～2020年3月期） 新たに策定いたしました。

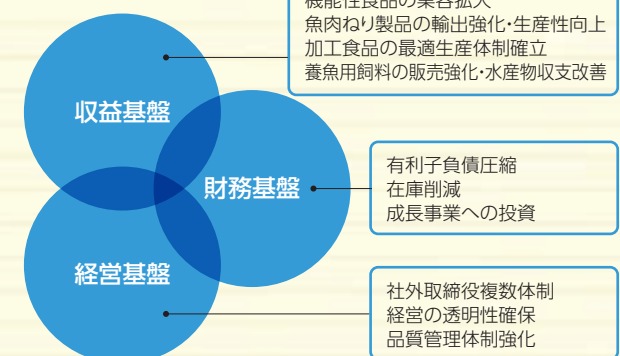
前進 ～次のステージへ

基本方針

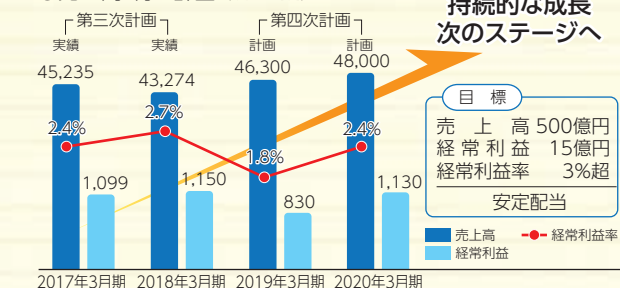
事業基盤の確立

「収益基盤」「財務基盤」「経営基盤」

これまでの取組みにより整いつつある収益構造を確実なものとするため、持続的な成長を可能とする事業基盤の確立に取組み、次のステージに向けて**前進**いたします。



○売上高・利益計画（単位:百万円）



持続的な成長
次のステージへ

霧島黒豚®は農場から食卓まで 管理された安全・安心のブランド



確かなブランド、
それが霧島黒豚®

～農場から食卓へ～

霧島山麓の大自然の中、自社グループ農場キリシマドリームファームで愛情豊かに肥育されるイギリス系パークシャー種の「霧島黒豚®」。さめ細かい肉質と良質の脂肪が特徴で、旨みと甘みのある美味しい黒豚に仕上げました。



霧島黒豚PREMIUM
あらびきウインナー



霧島黒豚ロースの
ご当地味噌漬食べ比べセット

赤鶏 さつま

鹿児島島の温暖な気候で肥育された赤鶏さつま。脂肪の色が白く、肉に弾力があり「シャキッ」とした歯ざわりで旨みがあり、風味の良い赤鶏に仕上げました。



赤鶏さつま
サラダチキン&ソテーセット



※調理例

林兼産業は、マルハブランドの フィッシュハム・ソーセージを製造しています

昭和29年(1954年)に下関の地で130gソーセージの生産をはじめて以来、半世紀以上にわたりフィッシュハム・ソーセージを生産しています。
今では、沖縄から北海道まで全国に出荷し、皆さまにご愛顧頂いております。

○主なラインナップ

ベビーハム

発売から60年を超えて愛される超ロングセラー商品です。さっぱりした風味の中にまぐろの旨みが広がります。



フィッシュソーセージ

そのまま食べられ和洋中とさまざまな料理素材としても利用できて、簡単でおいしく、安全・安心! こだわりのロングセラー商品です。



チーズかまぼこ

上質なすり身を使用し、チーズを10%配合した、ぷりっとした食感が楽しめるチーズかまぼこ! おやつにおつまみに最適です。



超高齢社会に対応した食事を通じ、 医療・介護に貢献します

介護食ブランド『まごころキッチン』は、やわらかさに配慮した商品からスタートし、栄養素を強化した栄養機能食品や、介護食材へと広がっています。
病院・福祉施設を中心に全国で使用され、皆さまの心と体の健康を、食事面からサポートしています。

○主なラインナップ

高齢者ソフト食ソフミート

見た目の良い、おいしい介護食が簡単に作れる調理素材です。



スティックゼリー

食べる力が弱まった方のために考えられた少量高栄養ゼリーです。



行事用和菓子

行事や催事に最適な和菓子です。美しさ・季節感を大切にしました。



「まごころキッチン」のお問い合わせは ☎0120-158-608
コミュニティサイトで情報配信中 <http://www.hayashikane.co.jp/mk-club/>

財務諸表（要約）

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 (平成30年3月31日)	前連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産	13,333	11,829
固定資産	16,075	15,892
有形固定資産	10,198	9,965
無形固定資産	28	33
投資その他の資産	5,848	5,893
資産合計	29,408	27,722
負債の部		
流動負債	14,614	13,303
固定負債	7,075	7,479
負債合計	21,690	20,782
純資産の部		
株主資本	5,708	4,979
資本金	3,415	3,415
資本剰余金	8	8
利益剰余金	2,291	1,562
自己株式	△ 7	△ 7
その他の包括利益累計額	1,238	1,223
その他有価証券評価差額金	1,290	1,294
繰延ヘッジ損益	△ 1	△ 1
為替換算調整勘定	11	11
退職給付に係る調整累計額	△ 61	△ 81
非支配株主持分	771	737
純資産合計	7,718	6,940
負債純資産合計	29,408	27,722

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1 日 至 平成30年 3月31日)	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1 日 至 平成29年 3月31日)
売上高	43,274	45,235
売上原価	36,191	37,909
売上総利益	7,083	7,326
販売費及び一般管理費	6,068	6,187
営業利益	1,014	1,138
営業外収益	352	239
営業外費用	216	279
経常利益	1,150	1,099
特別利益	3	10
特別損失	93	144
税金等調整前当期純利益	1,060	965
法人税、住民税及び事業税	316	239
法人税等調整額	△ 113	2
当期純利益	857	723
非支配株主に帰属する 当期純利益	39	29
親会社株主に帰属する 当期純利益	817	693

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 (自 平成29年4月 1 日 至 平成30年3月31日)	前連結会計年度 (自 平成28年4月 1 日 至 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,291	2,538
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 398	△ 452
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,213	△ 1,409
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3	△ 0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	675	674
現金及び現金同等物の期首残高	2,090	1,415
現金及び現金同等物の期末残高	2,765	2,090

連結株主資本等変動計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで) (単位:百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額					非支配 株主持分	純資産 合計
	資 本 金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当 期 首 残 高	3,415	8	1,562	△ 7	4,979	1,294	△ 1	11	△ 81	1,223	737	6,940
当 期 変 動 額												
剰余金の配当			△ 89		△ 89							△ 89
親会社株主に帰属 する当期純利益			817		817							817
自己株式の取得				△ 0	△ 0							△ 0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						△ 4	0	—	20	15	34	49
当期変動額合計	—	—	728	△ 0	728	△ 4	0	—	20	15	34	778
当 期 末 残 高	3,415	8	2,291	△ 7	5,708	1,290	△ 1	11	△ 61	1,238	771	7,718

個別貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当事業年度 (平成30年3月31日)	前事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産	11,460	9,937
固定資産	12,853	12,620
有形固定資産	7,095	6,804
無形固定資産	13	16
投資その他の資産	5,744	5,798
資産合計	24,313	22,558
負債の部		
流動負債	13,258	11,941
固定負債	4,962	5,122
負債合計	18,220	17,063
純資産の部		
株主資本	4,946	4,338
資本金	3,415	3,415
資本剰余金	5	5
利益剰余金	1,532	924
自己株式	△ 6	△ 6
評価・換算差額等	1,147	1,155
その他有価証券評価差額金	1,148	1,157
繰延ヘッジ損益	△ 1	△ 1
純資産合計	6,093	5,494
負債純資産合計	24,313	22,558

個別損益計算書 (単位:百万円)

科目	当事業年度 (自 平成29年 4月 1 日 至 平成30年 3月31日)	前事業年度 (自 平成28年 4月 1 日 至 平成29年 3月31日)
売上高	43,794	45,333
売上原価	38,056	39,458
売上総利益	5,738	5,875
販売費及び一般管理費	4,966	5,009
営業利益	771	865
営業外収益	311	235
営業外費用	193	238
経常利益	889	862
特別利益	—	33
特別損失	88	141
税引前当期純利益	801	754
法人税、住民税及び事業税	216	164
法人税等調整額	△ 111	—
当期純利益	696	590

会社概要

会社概要

設立年月日 昭和16年1月15日
資本金 3,415,020,145円
本店 山口県下関市大和町二丁目4番8号
〒750-8608 TEL(083)266-0210

沿革

昭和16年 1 月 山口県合同缶詰(株)を設立
昭和22年 6 月 山口県缶詰(株)に社名を変更
昭和25年10月 日新缶詰(株)に社名を変更
昭和27年 4 月 下関飼料工場を建設
昭和30年 1 月 林兼産業(株)を合併し新社名を林兼産業(株)に変更
昭和34年 8 月 下関工場を建設
昭和36年 8 月 大阪工場を建設
昭和37年 5 月 下関飼料工場を増設
昭和37年 5 月 株式を東京証券取引所に上場
昭和39年12月 本社社屋および研究棟を建設
昭和43年 5 月 下関第二工場を建設
昭和44年 4 月 林兼畜産(株)を設立、養鶏・養豚事業を同社へ移管
昭和45年 6 月 都城工場を増設
昭和51年 2 月 林兼冷蔵(株)を設立
昭和53年10月 林兼コンピューター(株)を設立
昭和61年11月 林兼ポートリー(株)、林兼ファーム(株)を設立し、
林兼畜産(株)の事業を両社へ移管
昭和63年 9 月 林兼冷蔵(株)第二冷凍工場を建設
平成 2 年 4 月 林兼ポートリー(株)が林兼ファーム(株)を吸収合併
平成 3 年 7 月 (有)平安海産を設立
平成 5 年 3 月 長府工場(養魚用飼料)を建設
平成 5 年 4 月 大阪第二工場を建設
平成 8 年12月 林兼フーズ(株)を設立
平成12年 1 月 林兼ポートリー(株)が社名を
キリシマドリームファーム(株)に変更
平成18年10月 都城ウエルネスミート(株)を設立
平成21年 3 月 (有)桜林養鰻を子会社化

本社・事業所等

管 理 本 部 / 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号
総 務 部 TEL (083)266-0210
経 理 部 TEL (083)266-0214

経 営 企 画 室 / 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号
TEL (083)266-0212

内 部 統 制 室 / 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号
TEL (083)267-0347

開 発 部 / 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号
TEL (083)267-1837

品 質 保 証 部 / 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号
TEL (083)266-0215

東 京 支 社 / 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目8番7号
オー・ジー東京ビル8F
TEL (03)5640-1651

大 阪 支 社 / 〒541-0054 大阪府大阪市中央区南本町三丁目4番7号
第一住建 御堂筋本町ビル7F
TEL (06)7660-2164

水産食品事業部 / 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号
TEL (083)266-0221
水産食品営業部 TEL (083)266-0222
機能食品部 TEL (083)266-1191
下関第一工場 TEL (083)266-0221

畜産食品事業部 / 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号
TEL (083)266-0216
企画開発部 TEL (083)266-0287
加工食品営業部 TEL (083)266-0223
食肉営業部 TEL (083)266-0218
下関第二工場 TEL (083)266-0221
都 城 工 場 / 〒885-0021 宮崎県都城市平江町40号1番
TEL (0986)23-1450

飼 料 事 業 部 / 〒750-8517 山口県下関市東大和町二丁目10番3号
TEL (083)267-9125
下関飼料工場 / 〒750-8517 山口県下関市東大和町二丁目10番3号
TEL (083)267-9125
長 府 工 場 / 〒752-0927 山口県下関市長府扇町13番33号
TEL (083)248-5423

役員一覧

平成30年6月25日現在

取締役社長 (代表取締役)	熊山 忠和
専務取締役	飼料事業部長 中部 哲二
常務取締役	水産食品事業部長 兼開発部担当 岡本 伸孝
取締役	(社外・非常勤) 岩村 修二
取締役	(社外・非常勤) 牟田 実
取締役	畜産食品事業部長 兼東京支社担当 兼大阪支社担当 三井 宏
取締役	管理本部長 兼経営企画室担当 兼品質保証部担当 高田 啓吾
取締役	飼料事業部副事業部長 三代 健造
常任監査役	(社外・常勤) 山本 昌信
監査役	(社外・非常勤) 大深 邦宏
監査役	(非常勤) 川崎 哲彦
監査役	(社外・非常勤) 桑原 望

株式の状況

平成30年3月31日現在

発行可能株式総数 20,000,000株
発行済株式の総数 8,910,000株
単元株式数 100株
株主数 6,728名
(前期末比715名減)

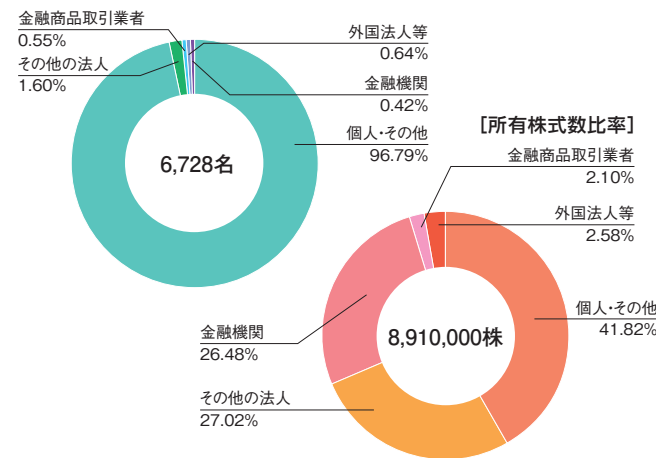
大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
公益財団法人中部財団	730	8.20
マルハニチロ株式会社	565	6.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	477	5.36
中部 緑	400	4.49
三井物産株式会社	375	4.21
日本生命保険相互会社	255	2.86
株式会社十八銀行	253	2.84
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	220	2.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	209	2.35
株式会社松岡	201	2.26

(注) 持株比率は自己株式(6,711株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況

【株主数比率】



【所有株式数比率】

